

別紙 1

京都式オレンジプラン「10のアイメッセージ」評価に係る調査 実施要領

1 目的

京都地域包括ケア推進機構では、平成25年に策定した「京都認知症総合対策推進計画（京都式オレンジプラン）」に基づきオール京都で認知症対策に取り組んできたが、計画の最終年にあたり、プランのアウトカム指標である「10のアイメッセージ」について、認知症の人（以下「本人」という。）等に評価をいただき、更なる認知症施策の展開につなげることを目的とする。

2 実施主体

京都地域包括ケア推進機構（認知症総合対策推進プロジェクト）

3 調査期間

平成29年3月から9月まで

4 調査対象者（評価者）

（1）本人 200人程度

地域の様々な資源やサービスを利用して在宅生活をしている認知症の人
代弁者による回答も可とする。

（2）家族 200人程度

地域の様々な資源やサービスを利用しながら在宅生活をしている（最近までしていた）認知症の人の家族等

（3）支援者 500人程度

本人、家族を支援している地域包括支援センター職員、認知症カフェ運営者、ケアマネジャー、介護事業所職員、認知症サポート医等

5 調査の内容

（1）10のアイメッセージに基づく23の評価項目 ※別紙のとおり

（2）調査対象者（評価者）の基本情報

ア 本人は、年齢、性別、DASC18の点数、介護認定の有無、介護度、同居家族の有無、発病後の年数、所在市町村及び本人調査の実施状況（本人・代弁者の回答能力に関する印象、評価協力者と本人・代弁者との関係、本人評価の課題）

代弁者が回答した場合は、年齢、性別、本人との関係、同居の有無、同居期間

イ 家族は、年齢、所在市町村、本人との関係、本人の状態、本人調査参加の有無

ウ 支援者は、区分、所在市町村

6 調査協力者（評価協力者）

（1）地域包括支援センター職員

本人評価及び家族評価の対象となった人が所在する地域包括支援センターの職員

（2）認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー研修修了者

本人評価の対象となった人のケアマネジメントを行う介護支援専門員

7 調査方法及びスケジュール

プランのアウトカム指標である「10のアイメッセージ」を評価項目（23項目）とした調査を本人・家族・支援者を対象に実施する。

本人・家族への調査にあたっては、本人・家族が評価しやすいよう、調査協力者（評価協力者）がサポートを行う。

（1）予備調査【3月中旬～4月中旬】

- ・ 調査に協力いただける本人、家族の有無について、府内地域包括支援センター及び「認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー研修」修了者が所属する事業所に照会
- ・ 併せて評価項目（23項目）及び評価協力者マニュアル案について、意見照会

（2）調査対象者（本人・家族）の選定【4月下旬】

地域、自立度等を勘案し、調査対象者を選定し、調査協力者（評価協力者）へ調査を依頼

（3）調査協力者向け研修会の実施【5月下旬】

調査趣旨、スケジュールなど調査概要の説明や DASC18 の使い方、評価協力者に求められるサポートについての研修を実施（北部会場、南部会場）

（4）本調査【5月～6月】

本人、家族等に対し、調査協力者（評価協力者）が、10のアイメッセージの達成状況について、聞き取り又はアンケート形式で調査。本人、家族への調査にあたっては、別途作成する「評価協力者マニュアル」にもとづき実施

①本人調査（本人評価）

- ・ 調査協力者（評価協力者）が、調査趣旨を説明し、マニュアルに沿って、本人（代弁者含む）に聞き取り
- ・ 調査協力者（評価協力者）が、DASC18を実施
- ・ 回答は、調査協力者（評価協力者）が返信用封筒で返送

②家族調査（家族評価）

- ・ 調査協力者（評価協力者）が、調査趣旨を説明し、調査票を手交
- ・ 回答は、調査協力者（評価協力者）が返信用封筒で返送

③支援者調査（支援者評価）

- ・ 実施主体が、文書で評価を依頼
- ・ 回答は、支援者が返信用封筒で返送

（5）結果とりまとめ・分析【6月～8月】

10のアイメッセージ 評価項目

10のアイメッセージ	本人の評価項目		家族の評価項目		支援者の評価項目	
	<1と思う○ 2少し思う△ 3そう思わない×>		<1とても思う 2少し思う 3どちらでもない 4あまり思わない 5全然思わない>		<1とても思う 2少し思う 3どちらでもない 4あまり思わない 5全然思わない>	
1 私は、周囲のすべての人が、認知症について正しく理解してくれているので、人権や個性に十分な配慮がなされ、できることは見守られ、できないことは支えられて、活動的にすごしている。	(1)	周りのすべての人が、認知症を正しく理解してくれている。	(1)	本人の周りの人は、認知症を正しく理解している。	(1)	認知症についての正しい理解がひろまっている。
	(2)	周りの人は、私らしさや私のしたいことをいつも気にかけてくれている。	(2)	本人の周りの人は、本人の人権や個性を尊重している。	(2)	認知症の人の人権や個性が尊重されている。
	(3)	周りの人は、私ができることは見守り、できないことはそばにいて助けてくれている。	(3)	本人の周りの人は、本人ができることは見守り、できないことはそばにいて助けてくれる。	(3)	認知症の人ができることは見守られ、できないことはそばにいて助けてもらっている。
	(4)	私は、診断される前と同様、活動的にすごしている。	(4)	本人は、診断される前と同様、活動的にすごしている。	(4)	認知症の人が、診断される前と同様、活動的にすごしている。
2 私は、症状が軽いうちに診断を受け、この病気を理解し、適切な支援を受けて、将来について考えることができ、心安らかにすごしている。	(5)	私は、軽いうちに診断を受け、病気を理解できた。	(5)	本人は、症状が軽いうちに診断を受け、病気を理解できた。	(5)	認知症の人は、症状が軽いうちに診断を受け、病気を理解できている。
	(6)	私は、将来の過ごし方まで考え決めることができた。	(6)	本人は、将来の過ごし方まで考え決めることができた。	(6)	認知症の人は、将来の過ごし方まで考え決めることができる。
3 私は、体調を崩した時にはすぐに治療を受けることができ、具合の悪い時を除いて住み慣れた場所で終始切れ目ない医療と介護を受けて、すこやかにすごしている。	(7)	私は、身体の具合が悪くなったらいつでも診てもらえる。	(7)	本人は、体の具合が悪くなった時、いつでも診てもらえるところがある。	(7)	認知症の人は、体の具合が悪くなった時、いつでも診てもらえるところがある。
	(8)	私は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかにすごしている。	(8)	本人は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかにすごしている。	(8)	認知症の人は、医療と介護の支えで住み慣れたところで健やかにすごしている。
4 私は、地域の一員として社会参加し、能力の範囲で社会に貢献し、生きがいを持ってすごしている。	(9)	私は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている。	(9)	本人は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている。	(9)	認知症の人は、手助けしてもらいながら地域の一員として社会参加できている。
	(10)	私は、私なりに社会に貢献することができている。	(10)	本人なりに社会に貢献することができている。	(10)	認知症の人が、本人なりに社会に貢献することができている。
	(11)	私は、生きがいを感じている。	(11)	本人は、生きがいを感じている。	(11)	認知症の人が、生きがいを感じている。
5 私は、趣味やレクリエーションなどしたいことをかなえられ、人生を楽しんですごしている。	(12)	私は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている。	(12)	本人は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている。	(12)	認知症の人は、趣味やレクリエーションなどしたいことがかなえられている。
	(13)	私は、人生を楽しんでいる。	(13)	本人は、人生を楽しんでいる。	(13)	認知症の人は、人生を楽しんでいる。
6 私は、支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がされているので、気兼ねせずすごしている。	(14)	私を支えてくれている家族の生活と人生にも十分な配慮がなされている。	(14)	私を支えている家族（あなた）の生活と人生にも十分な配慮がなされている。	(14)	認知症の人を支えている家族の生活や人生にも十分な配慮がなされている。
	(15)	私は、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくすごしている。	(15)	本人は、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくすごしている。	(15)	認知症の人が、家族や社会に迷惑をかけていると気兼ねすることなくすごしている。
7 私は、自らの思いを言葉でうまく言い表せない場合があることを理解され、人生の終末に至るまで意思や好みを尊重されてすごしている。	(16)	私は、言葉でうまくいえなくても私の気持ちをわかってもらえている。	(16)	本人は、言葉でうまくいえなくても気持ちをわかってもらえている。	(16)	認知症の人は、言葉でうまくいえなくても本人の気持ちをわかってもらえている。
	(17)	人生の終末に至るまで、わたしの思いが尊重されると思う。	(17)	人本人の思いが、人生の終末期に至るまで尊重されると思う。	(17)	認知症の人は、人生の終末に至るまで、本人の思いが尊重されている。
8 私は、京都のどの地域に住んでいても、適切な情報が得られ、身近になんでも相談できる人がいて、安心できる居場所をもつてすごしている。	(18)	私は、適切な情報を得ている。	(18)	本人は、認知症について適切な情報を得ている。	(18)	認知症の人が、認知症について、適切な情報を得ている。
	(19)	私は、身近に何でも相談できる人がいる。	(19)	本人の身近に何でも相談できる人がいる。	(19)	認知症の人の身近に何でも相談できる人がいる。
	(20)	私には、落ち着いていられる場所がある。	(20)	本人には落ち着ける場所がある。	(20)	認知症の人の落ち着ける場所がある。
9 私は、若年性の認知症であっても、私に合ったサービスがあるので、意欲をもって参加し、すごしている。	(21)	※若年性認知症の方のみ 若年性の認知症の私に合ったサービスがある。	(21)	※若年性認知症の家族の方のみ 本人に合ったサービスがある。	(21)	若年性認知症の本人に合ったサービスがある。
	(22)	※若年性認知症の方のみ 私にそのサービスに意欲をもって参加している。	(22)	※若年性認知症の家族の方のみ 本人は、そのサービスに意欲をもって参加している。	(22)	若年性認知症の本人が、そのサービスに意欲をもって参加している。
10 私は、私や家族の願いである認知症を治す様々な研究がされているので、期待をもってすごしている。	(23)	私は、いま行われている認知症を治す研究に期待している。	(23)	あなたは、認知症を治す研究に期待している。	(23)	認知症の人は、認知症を治す研究に期待している。